

2026（令和 8）年 2 月 27 日

2025（令和 7）年度関西保育福祉専門学校

第 2 回教育課程編成委員会報告

本校の教育課程編成委員会設置要綱に基づき設置した教育課程編成委員会において、第 1 回教育課程編成委員会を開催いたしましたので、概要をお知らせいたします。

1 開催期日 令和 8 年 2 月 25 日（水）15:00～17:00

2 開催場所 関西保育福祉専門学校 2F 校長室

3 出席者

■ 教育課程編成委員

NO	委 員 名	所 属 等	出欠
1	下里 里枝 委員	関西国際大学 教育学部 教育福祉学科 非常勤講師	欠席
2	上杉 泰章 委員	社会福祉法人 尼崎市社会福祉協議会 事務局長	出席
3	片井 由美子委員	尼崎市役所 保育運営課 保育士・保育所支援センター	出席
4	北島 孝通 委員	幼保連携型認定こども園 庄内子どもの杜幼稚園 園長	出席
5	山元 拓馬 委員	社会福祉法人 福成会 サポートセンターまつば 施設長	出席
6	黒岩由美子 委員	社会福祉法人 ふたば福祉会 塚口北ふたば保育園 園長	出席
7	藤田 千波	保育科学科長 就職委員長	出席
8	榎本 優人	教務委員長 教育課程編成委員会担当	出席

■ 学校教職員

NO	名 前	所 属 等	出欠
1	濱名 篤	学校法人濱名山手学院理事長 関西国際大学学長	出席
2	本田 あけみ	校長 関西国際大学社会学部 教授	出席
3	藤井 和子	保育科教員	出席
4	阪本 満	保育科教員 情報教育担当	出席
5	清水 智子	保育科教員 学生指導委員長 入試委員長	出席

4 概 要

（1）校長挨拶

（2）協議事項

各報告について、委員より以下の通りの意見や質問等があった。

協議事項1 今年度の報告と次年度(2026年度)に向けての課題について

- ・現場側としては、学校側から「この学生のここを確認したい」という具体的な質問項目やチェックリストを提示される方が、トータルな評価を求められるより答えやすく、指導のズレも防げる。また、実習での「自由保育」への対応は学生には難しいため、学校の目指す目標（主体性など）を現場の意見と照らし合わせながら整理することが大切である。
- ・技術や知識も重要だが、現場では「チームワークが取れるか」が最も重視される。一緒に働きたいと思える人間性が採用の鍵となる。
- ・技術や資格は入職後でも指導できるが、「人間能力（対人スキル）」の部分をより重視してほしい。

協議事項2 授業評価アンケートについて

- ・多様な背景を持つ学生が同じ教室で学ぶ中で、教員1人ひとりの配慮が大変だったのではないかと。
- ・「主体性」や「コミュニケーション力」といった曖昧な言葉が多いと感じる保育業界の中で、これらを学校側で「自分の思いを分かりやすく伝えること」などと具体的に定義し、学生に技術（理屈）として教える必要があるのではないかと。
- ・学生間の差を埋める工夫や、現役保育者の話をさらに聞くなど、より実践力をつけるための授業展開が今後必要である。

協議事項3 ICT環境アンケートについて

- ・自身の施設では、保護者向けのお便りの下書きや、Canva等を用いたイベントチラシの作成にAIを効果的に活用しており、業務の負担軽減につながっていると感じている。
- ・生成AIは挨拶文の作成には便利だが、保育計画などに利用しようとすると、適切な「プロンプト（指示文）」やロジックを組まないとしっかりこないことがある。学生には、AIが出した答えを精査する力や倫理観を身に付けて欲しいと思う。
- ・倫理リテラシー、AIとの上手な付き合い方の指導など、教員を含めた対応が求められていると思う。

協議事項4 学生生活実態調査について

- ・アンケート結果を見ると、アルバイトをしている学生が大変多い。状況から見て、自宅学習の時間が取りにくいのは理解できる。
- ・相談室を利用したい学生がいる一方で、実際の利用率が低いと、より積極的なアピールや、学生が利用しやすい環境づくりが必要である。

(3) 報告事項

報告事項1 2026年1月14日 文科省教職課程実地視察に関する報告

- ・特になし

報告事項2 2023年度生 就業状況調査結果及び2024年度生就業状況について

- ・園の現状として、無資格の補助者では補助金対象にならない場合が多く、園側としては有資格者がどうしても必要である。貴校が展開されている、夜間主等の社会人が働きながら資格を取れる道の重要性を痛感している。
- ・離職者が多い保育業界において、なるべく離職者を出さないためにも、園側には長期的な目で学生を育てていただくことを望みたい。

報告事項3 学生募集等について

- ハローワーク等を通じて「資格はないが働きたい」という 40～50 代が増えている実感がある。
- 学生のさまざまなニーズ(昼間 2 年、長期履修、夜間、社会人等)に応じた学びの場を提供されているので、引き続き貴校の強みを生かした PR を続けていただけたらと思う。